

Y. H. 情報メディア学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校生のころから大学へ入ったら留学したいと考えており、語学留学をするのではなく、現地の大学で英語を使って学びたいと思ったため協定留学を目指しました。また、休学をしないで 1 年間留学できるというところに魅力を感じ、さらに同志社女子大学の提携している大学がすべてあまり日本人のいるところではないと聞いて、自分の語学力も伸ばせると思ったからです。1 年生のころから継続的に勉強をしていましたがなかなか基準のスコアに到達することができず、自分への甘えもあり諦めかけた時もありましたが、最後のチャンスであった 2 年生の 12 月のテストのために最後の 3 か月は必死で勉強し、目標点に到達することができました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

最初は IELTS と TOFEL 両方の勉強とテストを受けていましたが、問題の出題形式が全く違い、国際課の方に TOFEL は受験を全てパソコンで行うため、慣れていないと難しいと言われ、IELTS 1 本に絞り勉強をしました。教材は Reading, Writing, Listening 用のもの 1 冊と別で Writing 用の対策本 1 冊を買い、その 2 冊をひたすら解いていました。講座などは受けず、独学で勉強しました。その他にも洋楽を聴いたり、字幕なしの映画を見たりして耳を慣れさせ、聞き取りの練習もしました。IELTS はコツを掴めば点数を取ることができると感じました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

私は留学が決まってから出発まではほとんど何もしていませんでした。これが一番後悔していることです。現地に着いてから、自分の語学力の低さに愕然としました。留学が決まってからも継続的に勉強は続けたほうが到着後苦しむことが減ると思います。ビザの申請はすごく時間がかかるしややこしいので早めに取り掛かるべきです。最初にネットで個人情報を入力するのですが、不備があり、私は 3 回やり直しました。さらにそのあと大使館へ行き簡単な面接も受けなければなりません。また予防接種も回数を分けて何回もしなければならぬので早めにするべきです。自分が今までに何の予防接種を受け、何を受けていないのかなど母子手帳で調べ、また予防接種をしている病院を探し何回も受けなければならなかったのが時間がかかりました。

④ 現地到着後

私は留学先に着く前に少し早めに家族とアメリカ旅行をしてからミリキン大学へ送り届け

でもらったので、他の留学生とは少し違いました。他の留学生は空港に送迎のバスが迎えに来てくれるので、そのバスに乗ってミリキン大学まで来ていました。現地の新1年生が住む寮で一緒に生活をするのですが、私たち留学生は現地の新1年生よりも4、5日早く到着し、先にオリエンテーションを行いました。オリエンテーションの時の説明を聞き取ることができず、また一緒に留学した C.I.さんと私の ID が逆になっており、直してもらうのに1週間かかりました。私は語学力への不安と他の留学生の英語力に圧倒されこのオリエンテーションの時にあまり周りの人と積極的に会話ができなかったことを今思えば後悔しています。

⑤ 語学研修期間

私は秋スタートだったので語学研修はなかったのですが、秋学期は ELC の授業中心に取っていました。私が受講していたのは Reading, Writing, Speaking and Listening, Vocabulary です。私たちが留学した年から、今までレベル別に少人数で行われていた授業が、すべてのレベルの人が一緒に授業を受ける形に変わり、上級レベルの人から下級レベルの人まで幅が広く、先生は下級レベルの人につきっきりになってしまい、最初は意味があるのかとても不安でした。しかし、次のセメスターが始まった時に、ELC の授業のおかげで英語が上達していることに気づき、また ELC は授業中にたくさん発言やプレゼンをする機会があるので、積極的に受講するべきだと思います。また ELC の生徒専用のラウンジのような部屋とコンピュータ室があり、ELC の生徒ならいつでも使うことができ、コンピュータ室は特に印刷のためによく利用していました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設、環境について

大学内にジムやいつでも使えるコンピュータ室などがあり、特に運動する機会が無いので、ジムは頻繁に行っていました。キャンパスも広すぎず狭すぎず、どの棟にも歩いて移動できるので私はそこまで苦ではありませんでした。ただ寮の壁が薄く、私の暮らしていたフロアは音楽専攻の人が多く住んでいたのもので夜中に爆音で音楽を鳴らしていたり、大声で歌っていたりする声で起きてしまったりすることがたびたびありました。

◆ 履修科目

• Introduction to Sociology

秋学期に唯一受講していた正規科目です。アメリカの社会情勢についての授業でした。頻繁に小テストがありますが4択で難しい問題ではなく、日々の授業を聞いていれば十分解ける問題でした。中間テストと期末テストは先生が押さえておいたほうが良いポイントをまとめてくださるのでそこを中心に勉強すれば問題なかったです。期末テストの時期には

プラスで映画を見てその内容について自分の意見を書くレポートもありますが、他の授業に比べると比較的簡単な授業でした。

• **Media Literacy**

情報メディア系の授業で、アメリカの情報の歴史や現在のメディアの問題点などを知れるため履修しました。ディスカッション形式で授業が進められ、また何回かグループで短い劇をしたり、課題提出をしたりすることがありましたが、私はこの授業が個人的に一番楽しかったです。小テストやレポートがほぼ毎週あり、その点に関してははすごく大変でした。特にレポートはアメリカ式の書き方があり、私は最初よく理解していなかったため先生の元へ何回も足を運び書き方を教えてもらいました。

• **University Seminar**

現地の 1 年生の必修授業です。日本でいう道徳のような授業でした。家族、友達、勉強、文化などの大切さを学ぶ授業でした。また学期内に 3、4 回ボランティア活動にも行きました。この授業は比較的簡単です。アメリカの差別問題などを映画を通して学ぶこともできました。

• **Foundation of Information System**

これも情報系の授業で、情報倫理の授業でした。パソコンを使って授業を受けます。授業自体はそこまで難しくないので、学期末にグループプレゼンと個人プレゼンがあり、特にグループプレゼンはアメリカ人の生徒と協力してしなければならず、とても大変でした。授業内の発言が重要視される授業なので、発言力やプレゼン力も鍛えることができました。

⑦ **クラブ活動、課外活動、ボランティア活動**

私は特に参加していませんでしたが、他の一部の留学生の中には留学生のクラブに所属している人もいました。しかし所属していないからといって何かマイナスイメージがあるわけではなかったです。

⑧ **現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について**

ミリキン大学には 4 つの寮があるのですが、私はドルソンという現地の新 1 年生が生活している寮に住んでいました。しかし他の留学生はほとんどウッズという寮に住んでいました。ドルソンは 2 人部屋で必ずアメリカ人と相部屋になるのですが、私は最初に相部屋だった子と生活文化の違いからうまくいかなくなり、途中で部屋を変わりました。すぐ部屋を変えられるという話だったのですが、寮の管理センターと留学生担当の先生とで話しの矛盾があったり、アメリカ人ならではの適当なところがあり、なかなか話が進まずとても苦労しました。しかし次に同じ部屋になった子とはとても良い関係を築くことができ、2 階

から4階に引っ越したこともあり、4階の人がとても暖かく受け入れてくれ、とても楽しい寮生活を送れました。また申請すればホストファミリーをつけてもらうことができ、週末にどこか一緒に行ったり、ご飯を食べたりしました。私のホストファミリーはとてもいい人たちで、彼らにとっても助けてもらい、またたくさんの場所に連れて行ってもらいました。

⑨ 長期休暇中の過ごし方

ミリキン大学はとにかく休みが多いです。月に1回は3連休や4連休がありました。秋休みは一緒に留学へ行ったC.I.さんとシカゴへ行きました。冬休みはフランス人の友達とニューオーリンズへ車で旅行した後、サンフランシスコやロサンゼルス、ラスベガスへ行き、一時帰国しました。春休みとイースターはお金がなかったのでどこにも行きませんでした。残っている他の留学生と映画を見たりホストファミリーとお出かけしたりしていました。またテストが近かったのでテスト勉強をしていました。冬休みは約5週間あり、寮が閉まってしまうということを留学してから知ったのでとても困りました。また大学から空港やバス停がとても遠いし、タクシーも時間通りに来てくれないことが多いので、私はアメリカ人の友人やホストファミリーにお願いして乗せて行ってもらっていました。

⑩ 留学期間中の就職活動

ボストンキャリアフォーラムという日系企業がボストンへ集まり選考をしてくれるというイベントへ行きましたが、あまり役には立ちませんでした。SPIのテキストを日本からもっていき、時間があるときにちょこちょこやっていましたが、春学期は正規授業を中心に履修していたため課題が多く、あまり時間がなかったです。3月1日にプレエントリーを行ったりエントリーシートを提出したりしていましたが、選考が行われる日が帰国より前であることが多く行けませんでした。しかし帰国する前からエントリーシートの書き方や企業研究をしておくことで帰国後スムーズに就職活動を行えると思います。

II. 留学の感想

① 留学中楽しかったこと、最も思い出に残っていること

寮の生活はとても楽しかったです。最初はルームメイトとのごたごたもありましたが、4階に移動してからはルームメイトとも、フロアの人ともとても仲良くなることができ、みんなと映画を見たりゲームをしたり、恋バナをしたりなどとても楽しかったです。また私のホストファミリーはとてもいい人だったので、毎週どこかへ連れて行ってくれたり、私が困っているときにすぐに来て助けてくれたり、1年しか無い留学生活を無駄にしたらもったいないと言って様々な経験をさせてくれました。ホストファミリーの家も大学から徒歩圏内であったので授業終わりに行き、一緒に料理をしたり映画を見たりしました。私の留学

生活はホストファミリーに本当に支えられていました。

② 留学中辛かったこと、苦勞したこと

いろいろありますが、まずは言葉の壁です。現地に着いたとき、私たち日本人が一番英語が話せませんでした。授業を理解するのも一苦勞で、最初はなかなか友達を作ることができず、とても辛かったです。また田舎の大学なので人種差別のようなものもあり、その点でも大変でした。また日本の大学とは違い膨大な量の課題、宿題、プレゼン、テスト、レポートがあります。さらに毎回授業を予習復習しなければディスカッション形式の授業なのでついていけません。特にテスト前は 3 日間徹夜して勉強していたときもありました。今となっては頑張っただけよかったと思いますが、当時はとても辛かったです。もう 1 つ、ご飯が信じられないくらいおいしくなかったです。大学のカフェテリアは現地の人もおいしくないというほどで、最初は食べられますが飽きてしまい、食べるのが嫌になる時期がきます。

③ 文化、習慣の違いで驚いたこと

ルームメイトがベッドの上でポテトを食べて、ケチャップをそのまま床におきっぱなしにしたり、服を床に脱ぎ捨てっぱなしにしてあったり、シャワー室にポップコーンが散らばっていたりなどしたときはとても驚きました。またアメリカ人はあまりシャワーを浴びず、冬は私のルームメイトは週 2 くらいであったのもとても驚きました。最初は困惑していましたが、慣れたらその環境も楽しむことができました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学で良かった点、悪かった点

良かった点は本当に日本人がいないので英語の向上にはもってこいの環境です。たくさんの外国人の友達を作ることができましたし、日本語を話すことがまったく無い環境での 1 年だったのでとても刺激的な毎日を過ごすことができました。悪かった点はまず田舎すぎて車がないとどこにも行くことができないということです。スーパーに買い物ですら車が無いと行けず、遊びに行くところもほとんどありませんでした。また日本人がいない点は英語向上には良いですが、辛いことや悩んでいることがあるときにそばで話を聞いてもらったり相談する相手がないのはとても辛かったです。

② 日本から持って行って特に役に立ったもの

パソコンは必須です。オリエンテーションから使います。ミリキン大学は授業によっては課題やレポートの提出などもミリキン大学のサイトにしなければいけないときがあるので本当にパソコンは必要でした。他には日本食、洗濯ネット、浴衣、日本の薬、生理用品、

化粧落としです。日本食は本当に買うところが無いのでたくさんあればあるだけ良いです。アメリカの食事に飽きたときに食べていました。シャンプーやリンスなどは日本と同じようなものがスーパーに売ってますし、オリエンテーションで生活に必要なものを買に行かせてくれるので大丈夫です。

③ 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

ミリキン大学にいる間、私は留学生の中でも一番しゃべることができず、自分の語学力の上達をあまり感じるできませんでした。しかし帰国後、バイト先に来た外国人と英語で会話することができたり、前よりも躊躇なく話せていることに気づき、成長を感じることができました。さらにアメリカでの生活を通して自分の意見をしっかり持ち、自分で行動することの大切さを学び、今までは人に頼ってきたことを自分でやり遂げようとする力をつけることができました。旅行に行くにしても、飛行機のチケットを自分で予約して1人で目的地まで行ったりしたことが今までなかったので、とても良い経験になりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

ミリキン大学は思い返せばとても良い大学でしたが、実際生活しているときは観光にも行けないし、買い物にも行けないし、苦痛でした。他の都会の大学へ留学している友達の写真を SNS で見てはうらやましい気持ちでいっぱいになっていました。しかしその分しっかりと勉強をすることができる環境でもあり、また狭いからこそ本当に仲のいい友達を作ることもしました。周りにとらわれすぎず、自分なりの楽しさを見つけることができればミリキン大学はとても良い環境だと思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標、夢

留学を通して改めて食の大切さに気づき、日本の食品メーカーを中心に、現在就職活動を進めています。留学へ行くことは語学の面だけではなく、精神面、また今までまったくできなかった経験をすることができ、自分に自信をつけることができました。そして自分を見つめ直すこともでき、どんな企業へ就職するかはわかりませんが、留学という経験が私の将来を考える上でとても大きなきっかけになったことは確かです。

V. 写真



インターナショナルフェスティバルでの写真です。私たちは浴衣を着て日本の文化を紹介しました。一緒に写っている子はコンゴ出身の子で、私はミリキン大学でこの子と一番仲良しでした。



ホストファミリーとクリスマスツリーの飾り付けをしました。ハロウィンやイースター、クリスマスなどアメリカの伝統的なイベントを全部体験させてくれました。ホストファミリーは本当に支えになるので申請するべきです。



私の誕生日です。春休みだったので、ほとんど人がいなかったのですが、寮に残っていた留学生の友達がケーキやプレゼントをくれてお祝いしてくれました。この写真は左からインド人 2 人と韓国人の女の子です。

C. I. 社会システム学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

協定留学を考えたきっかけは 3 つあります。社会システム学科の特色である CASE の受講を通して、実際に海外の大学で学んでみたいという興味が一番の理由です。もう 1 つは、アメリカ人の叔父の故郷を訪ねるきっかけが欲しかったこと。後もう 1 つは、就職という大きな決断を下す前に今までとは違う厳しい環境に身を置くことで人格的成長を遂げたかったからです。考え始めた時期は 2 回生の夏休み前です。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

学校の英語学習支援をフル活用しました。English Chat Room や English Writing & Speaking Support に参加したり、ESSR を利用しました。IELTS 対策講座にも参加しました。私の場合留学を決定した期間から協定留学受験までの期間が短かったので、Pod cast を使って通学中英語のラジオを聴いたり、図書館で英語の本を読んでボキャブラリーを増やしたり、できる限り英語に触れるよう努力しました。役立つ教材は人によって違うので、自分が必要なことを見極めて対策をとることが大切だと思います。英語能力試験に関しては、自信がなくても早い段階から模擬テストを体験することが重要です。

③ 留学決定から出発までの準備期間

語学勉強に関して、準備は速く始めるに越したことはないですが、手遅れなんてことはありません。私の周りでも、留学したかったけど今更遅いし…と諦めていた友達をたくさん見受けましたが、やる気しだいでも何でもなるので諦めないでください。ビザ申請など留学に関する諸手続きは、面倒ですが調べれば自分でできます。心配ありません。

④ 現地到着後

現地到着後は空港から寮まで学校のバスで送迎してくれます。私のときは午後 5 時に空港で留学生が集合し、一斉に移動しました。オリエンテーションは約 1 週間にわたり、留学生の友達もアメリカ人の友達もたくさんできました。手続きは説明されますし、分からなければ周りの人に聞けば大丈夫です。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

去年までと制度が異なり、留学体験記で読んでいたものよりも大きく質が下がっていたので正直残念でした。先生方はとても親切で、勉強以外のことでもとても親身になって下さいました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容は英語四技能の基礎構築を目的としたものです。正規授業では発言することが多く求められるので、ELC でも発言に重きが置かれます。課題はプレゼンテーションや読書、簡単なレポート提出が求められました。試験方法は Vocabulary のクラスは筆記試験で、Speaking & Listening、American Studies はプレゼンテーションでの評価。Writing は Final Paper の提出でした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

とても小規模な学校です。キャンパスには校舎以外ありません。同志社女子大学からの派遣留学生が滞在する Dolson という寮は、寮の中では一番設備がよいと聞きました。Decatur は田舎町なので町自体は大きいのですがコミュニティーが小さいです。イリノイ州はシカゴがあるので一見すると Blue State ですが、実際は外国人への理解は少なく、生活していて学生以外の外国人に会うことはありませんでした。徒歩圏内にスーパーはあるので生活はできますが、遊びに行きたい場合は知り合いに車を出してもらるか、タクシーを利用しなければなりません。春学期からは Uber が普及しました。

◆ 履修科目

・ PO367 Model UN

模擬国連大会に参加することを目的に行われる授業です。私の所属するゼミに一番近い科目だったので履修しました。クラスメイトは 3 回生が私を含め 2 人とあとは全員 4 回生でした。初回は国連の仕組みについて、中盤からは模擬国連を模した授業内容でした。レポート課題や授業内でスピーチも数回しましたが、Position Paper や General Assembly でのスピーチの練習だったので、日本で参加した模擬国連大会の経験が助けになりました。ディスカッションは前期に履修していたこともあり難しかったので、教授に頼んで Resolution Paper を事前に読み込んで授業に参加していました。私の年は Model UN は Chicago で開催されたのですが、クラスメイトと 3 泊 4 日一緒にホテルに泊まったのはとても楽しかったです。

・ MO 133 Millikin Women

合唱の授業です。社会システム学科科目の単位に認定されないことは知っていましたが、Music Major と Theater Major が有名な学校だったので、Millikin の学生ならではの体験がしくて受講しました。受講するには個人でのオーディションに受からないといけません。内容は課題曲の唱歌と初見での譜読みでした。イベントに向けてクラスメイト達と練習、リハーサルを重ね、隣町へのツアーもあったり部活のような授業でした。音楽に強い

学校なのでレベルの高い合唱の授業が受けられます。ここでの思い出は語りつくせません。Millikin Women での時間を過ごした時間は宝物です。

・ **SO 360 / IN 350 Multiculturalism & Diversity**

社会学の授業です。小テストや課題が多かったですが、真面目に頑張れば大丈夫です。人種差別の発生や変遷今後についての授業で、アメリカに来て一番関心を持ったトピックだったので課題が多少多くても苦になりませんでした。教授自身もペルーからの移民だったのでアメリカ社会を客観的に批判した授業でとても興味深かったです。クラスメイトは全員アメリカ人でしたがほかの授業に比べて圧倒的にダイヴァーシティに富んでいて全員の意見が違ったのでディスカッションの時間が楽しみでした。教授とは授業外でもお互いの国についてや外国人としての悩みを共有したりして談笑しました

・ **PO 321 / IN 350 Global Issues**

様々な国際問題の導入を中心に学びました。最近のニュースを毎回授業初めに話し合ったり、ときには役割を決めてシミュレーションをしたりして授業が展開されます。座学での講義は比較的ベーシックなものですが、シミュレーションが難しかったです。定期試験もきちんと勉強すれば大丈夫なのですが、それぞれの事象を Liberalism, Realism, Marxism, Constructivism, Radicalism の観点から問われることが多く、日本での定義と異なる場合があるので注意が必要でした。日本で学んだ国際問題をアメリカの視点で学んでみたかったので受講を決めました。

・ **PO105 / IN 250 The American Political System**

この授業はアメリカの政治の仕組みや歴史について学びます。課題の多さは履修した科目の中で一番でした。課題で毎週読む本が面白いのですが専門用語が多くて訳すのが大変でした。毎週提出のレポートは個人的に日本の政治と比較して書いていたので、日米の相違や日本政治に疑問を抱くきっかけになって面白かったです。

前期に大統領選でアメリカが沸いていた時アメリカ政治に興味を持ったのが受講理由です。

すべての授業総じて、アドバイザーと話し合っただけで決めるのが通常の流れですが、結局自分が何をしたいかは決まっていたので確認署名を頂いたぐらいでした。相談しながら決めていく生徒も多かったですが、私の希望していた科目は人気があったので取りたいと思った時点で直接教授に相談に行きました。交換留学生の優先度は一番低いので早めに行動することをお勧めします。定員人数を超えたとしても事前に教授に熱意を伝えていたりすると案外枠を設けてもらうことも出来ました。私の場合は前のセメスターでの頑張りを認めてもらえて Global Issues の受講が出来ましたが、あと 2 人受講を希望していた留学生は足り

りされてきました。

◆ 授業、レポート、定期試験

授業は同志社女子大学と同様、履修登録修正期間が設けられておりますのでそこで難易度を図ることが出来ます。単位認定の条件故、難易度の高い 300 番台の科目を履修しましたが、私の場合は 3 回生の夏に留学したのでそれまで日本で学んだ専攻科目のバックグラウンドが理解を助けていました。その分野の知識もなくいきなり専攻するのは、英語能力がよほど高くないと難しいかと思えます。また、自分が授業で成果を残せないと、次年度からの交換留学生に設けられる制約が大きくなるそうです。レポート課題、定期試験に関しては、履修を考える際に教授に聞きに行けばすべて教えてもらえます。私は CASE の上級をフルで受講していたため、課題の多さには耐性がありましたし、何より学びたいという意欲があったので乗り切れました。意欲があればどんどん挑戦できる環境なので、興味があるのなら、少し困難に感じて挑戦してみるといいかもしれません。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

特に行っていませんでした。Millikin Women は授業ですが放課後に本番前になるとリハーサルがあったり、ツアーでクラスメイトと一緒に寝泊りするのでクラブ活動のように楽しめました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

（寮・ホームステイの決定方法、設備、食事内容、通学距離・時間など）

寮は Dolson と指定されていましたが、交渉すれば違う寮にも移ることができます。交換留学生は全員 Woods に住んでいました。留学生は基本的には Dolson の International Floor でアメリカ人のルームメイトと一部屋を 2 人で、Bath Room を 4 人でシェアします。多少の問題があっても話し合えば解決しますが私の場合体感温度が違ったのと部屋の照明を好きな時間に使用したかったので、春学期からは 3 階の 1 人部屋に住みました。アメリカ人しかいないフロアだったのでアメリカ人の友達がたくさん増えました。食事は前年度以前の留学体験記から覚悟はしていたものの、カフェテリアの食事は不味かったです。留学生アメリカ人に関わらず、利用をやめる人が多かったです。私は同じく不満を抱いた友人とともにミールプランを減らす交渉に出た結果、シェフと話し合うことになり、献立を提出する代わりに特別に違う食事を作ってもらっていました。その後しだいに料理全体の味も改善され以前よりおいしくなったという声を耳にしました。通学は寮から教室まで徒歩 5 分以内です。

⑨ 長期休暇の過ごし方

友達とアメリカ国内を旅行したり、テキサスに住む親戚を訪ねたり、ホストファミリーと

過ごしました。冬休みは3か月ほどあるので、日本に一時帰国しました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

秋にボストンキャリアフォーラムに参加しました。週活が解禁されてからはプレエントリーはしましたがそれ以外は一切していません。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

Millikin Women で自分の存在が認められたことです。留学生1人で飛び込んだので正直不安もありましたが、一緒に歌や振り付けの練習を放課後手伝ってくれたり週末に遊ぶ友達ができることが心から嬉しかったです。授業の中で何事にも積極的に挑戦した結果、最後の授業でクラスメイト達や先生にあなたがクラスで一番輝いていたと言ってもらえたとき感動して涙が止まりませんでした。カフェテリアの食事によく文句を言っていたので、Woods に住む友達がよくご飯を作ってくれました。さまざまな国の料理を食べるのはとても好きな時間でした。留学生の友達とは夜遅くまで勉強をしたり、夜中に映画を見たり近くの公園を散歩したり何気ないことがとてもいい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

アメリカ人の友達を作ることです。軽く挨拶をする友達は簡単にできますが、深い中になるのは難しかったです。自分から行動を起こす大切さを学びました。自分から挨拶をする、名前を呼んでみる。基本的なことですが、恥ずかしがったり、勇気を出せずに、結局留学生同士でしか行動しない人が多かったのでとても重要だと思いました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカ人の日本人に比べてだらしないところです。使った食器を洗わない人がたくさんいたので、カビが生えていたこともあり衝撃を受けました。時間やお金にルーズな人も結構いるので自分の意思を伝えられないと苦勞すると思います。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

よかった点は、アメリカ人との距離が近いことです。田舎の狭いコミュニティーなので深い人間関係を築きやすかったと思います。悪かった点は交通の便の悪さです。ただどこに行っても自分次第です。都会で生まれ育ったので真逆の環境で暮らすことに戸惑いやストレスもありましたが自分の行動次第で、いくらでも楽しめます。辛かったこともありましたがすぐに思い出せないくらいは努力しました。最終的には Millikin にしてよかったと自

信を持って言えます。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは絶対必要です。電子辞書もたくさん使いました。洗濯ネットも持っていくことをお勧めします。日本から持ってきた服は必ずほめてもらえるので、友達作りのきっかけに良ければ。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力の向上に関しては、帰国後 CASE でお世話になっていた先生方にご挨拶に行った際、留学前よりも各段に自分の意思を伝えることができるようになってきていることに気づき、成長を実感しました。英語力は確実に向上しましたが私はそれ以上に、自分の意見を持つことが出来るようになったこと、行動力がついたこと、自分らしく振舞えるようになったことなど精神面での成長が財産のように感じています。一番の収穫は親の大切さや、愛情の深さに気づくことができたことです。これからたくさん親孝行していきたいと早い段階で気づけたことはとても幸運です。留学の成果は計り知れないほどです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

理由をつけて諦めないでください。私は留学決定から、協定留学生選考のまでの期間が 6 か月という短い期間でした。6 か月で IELTS のスコア獲得と、同時に留学資金を稼がないといけないということで悩みました。しかし方法はいくらでもあります。私の場合は校内の英語学習支援システムをすべて活用し、授業の合間には外国人講師にスピーキングとライティングの添削を頼み、お金をかけずに学習することでその分アルバイト代を貯金に回しました。当然アルバイト代ですべての留学資金を賄えるはずもなかったのですが、給付型の奨学金を活用しました。航空券代がどうしても足りなかったのですが、親に帰国後アルバイトをして返すという条件で借りましたが、私の本気をみた両親は最終的には留学に賛成し、精神的にも金銭的にもサポートしてくれました。周囲の人々の助けも得て、最終的に留学することができました。本当にやりたいことなら、行動次第でどうにでもなると私は信じています。

また、情報収集を怠ってはいけません、例えば、留学先大学で履修した科目の同女科目への単位認定には認定基準があり、各学科カリキュラムに沿った学科ごとの認定方針で認定可否が判断されます。よって、同じ協定校への留学であっても、所属学科によって認定可否のポイントが異なります。例えば、社会システム学科では、留学先大学の科目番号（科目のレベル）も単位認定の参考とされるといったことです。私がそれに直面したのは留学決定後、単位認定について教務主任の先生と話し合った時です。もしこのようなことが事前にわかっていたなら、留学前の同女での履修科目を決める際に違う選択をしたかもしれ

ません。事前にしっかりと情報収集されることをおすすめします。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

現在は、就職活動に励んでいます。卒業後は就職する予定です。将来の夢はもう一度海外留学することなので、海外留学制度の整った総合商社に就職したいです。そしてそこで身に着けた知識を業務に生かしたいと考えています。まだはっきりとは決めていませんが、いずれにせよ海外に直接的に関わる仕事がしたいです。また Millikin で出会った友人たちと再会する約束をしたので、みんなの国を訪ねたいです。

V. 写真



アメリカ人の友達と台湾人の友達です。一緒にカフェテリアで食事をしたり、週末ドライブして出かけました。アメリカ人の 2 人はもちろん台湾人の 2 人は英語が堪能で、よくみんなから英語を教えてもらいました。



Millikin Women の最後のコンサートの時の写真です。Kara と Mogen はクワイヤーの練習で仲良くなり、2人の好きな音楽や、レストラン、映画を教えてくれてたくさんアメリカ文化を学びました。中でもスターウォーズを Kara の部屋で見るのが私たちの恒例行事でした。



ルームメイトの Leah です。秋学期は彼女と暮らしました。春学期は私が1人部屋に引っ越しましたが、変わらず仲良しでした。Pizza Party はどちらかがピザを食べたくなったら開

催すルールで、そのおかげで Domino のデリバリー注文が得意になりました（笑）喧嘩もしましたが一緒に泣いたり笑ったり、彼女の存在は大きかったです。



Model UN の写真です。まだ英語力に自信がなかったころだったので、不安だけで参加しましたが、教授が親身になってくださったり、クラスメイトの温かい応援があったおかげで楽しむことが出来ました。みんなでレストランに行ったり、夜にお酒を飲んだりして仲良くなりました。



一番好きな授業 Millikin Women の最後の授業で撮った Soprano 1st のメンバーでの集合写真です。才能と優しさに溢れた素敵なメンバーで、困っているとすぐに手を差し伸べてくれました。大好きなみんなともう一度歌いたいです。